献呈の辞

最近の気候変化は大変激しく、私どもの季節感もいささか揺らぐようになっていますが、それでも何とか春を迎えようかという時期になってまいりました。本年度、平成二十二年度は文学部にとって大きな節目の一年であり、この三月に至って、ようやくこの一年を乗り切ったという感慨がある一方、同時にそれは退職する先生をお送りする時期とも重なっております。

専修大学文学部では、二〇一一年三月末日をもって、歴史学科の内藤雅雄教授が定年を迎えられ、退職されることになりました。

内藤先生は、一九四〇年、福井県武生市（現・越前市）にお生まれになり、一九六〇年東京外国語大学インド・パーキスターン科に入学、一九六四年三月に同科を卒業されました。同年四月、東京大学大学院人文科学研究科（印度哲学専攻）修士課程に進学され、一九六七年、同科を終了、一九六九年に東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所の助手となられ、助教授を経て、一九九四年から二〇〇二年まで教授を務められました。そして同年四月に本学文学部に教授として着任され、九年間にわたって研究と教育にあたってこられました。

内藤先生のご専門は、インド近代史、とりわけ独立運動期・分離独立期・独立後のインド、カンデ

ィの人と思想、さらに彼の運動の歴史的特質の研究、民族解放運動と国民会議派の関係、インド民主主義とヒンドゥー原理主義との関係、などきわめて多岐にわたっておられます。また、先生は若い頃から一貫して、世界に散在するインド系移民の分析からインド文化の特質を明らかにする研究を行ってこられました。

本学に移られてからの先生は、毎年のようにクラス担任を務められ、学生・院生の教育にも熱心に力を傾けてこられました。内藤先生とは、オープンキャンパスでの相談員として何度かご一緒させていただいたことがありますが、そのときの相談者に対する穏やかで丁寧な対応がはっきりと印象に残っています。そのときは、ああ、内藤先生はこういう風に学生たちに接しておられるのだなと思ったこと覚えております。こうして先生のご経歴をあらためて振り返らせていただくと、機会を見つけてもっと先生にいろいろな話をうかがっておくべきだったとの感を抱かざるをえません。内藤雅雄先生の今後の益々のご発展とご健勝を記念して献呈の辞とさせていただきます。

平成二十三年三月

専修大学文学部長　金　子　洋　之